

## 2007 能登半島地震震源域周辺の比抵抗不均質構造

## Crustal heterogeneity in electrical resistivity around the focal region of the 2007 Noto Hanto Earthquake, Central Japan

# 吉村 令慧 [1]; 大志万 直人 [1]; 上嶋 誠 [2]; 能登半島地震震源域比抵抗研究グループ 大志万 直人 [3]

# Ryohei Yoshimura[1]; Naoto Oshiman[1]; Makoto Uyeshima[2]; Oshiman Naoto Research Group for Crustal Resistivity Structure in the 2007 Noto Hanto Earthquake[3]

[1] 京大・防災研; [2] 東大・地震研; [3] -

[1] DPRI, Kyoto Univ.; [2] ERI, Univ. Tokyo; [3] -

2007年3月25日に、能登半島西岸深さ約10kmを震源とするMj6.9の地震が発生した。北西-南東方向に圧縮軸を持つ、横ずれ成分を含む逆断層型である。今回の震源断層周辺での不均質性を電気比抵抗構造として把握する目的で、8大学合同での広帯域MT構造調査を実施した。4月4日から5月1日にかけて計26点において電磁場データを取得した。

面的な配置をした観測網から5つの解析断面を設定し、TMモードのデータのみを使用した2次元解析を行った[Yoshimura et al., 2008]。得られた結果の特徴は以下の通りである。(1)本震の下部に低比抵抗領域が検出され、その領域は余震活動の活発な領域東部まで広がる(2)本震と東部の最大余震の間に存在する余震活動のギャップ域は、高比抵抗(3)東部の最大余震は、前述の高比抵抗とその東部に推定された低比抵抗領域の境界に位置する。

本講演では、比抵抗のコントラストと地震活動とを詳細に比較するために現在実施中の3次元解析について、予察的な結果も報告する予定である。